

年代別のピカソの自画像を鑑賞して

芸術科（美術） 普通科・第1学年

石川県立金沢辰巳丘高等学校・教諭

1 事例の概要

高等学校における芸術科（美術）では、限られた授業時数でカリキュラムを計画するにあたって、これまでの写生を中心とした基礎的な題材や制作に多くの時間がかかる題材が精選されてきた。環境や社会の変化と共に表現活動のあり方について新たな視点をもつことが求められ、コンピュータグラフィックスなどでの短時間で効果的な表現が実現できる題材に取り組むなど、様々なカリキュラムを模索してきた。また、総合的な学習の時間における課題としての環境問題やキャリア教育などの視点は表現活動のテーマ設定に、また、コンピュータのソフトウェアなどのスキル学習は表現方法の多様化に対応するなど美術との連携に役立ってきた。

しかし、コンピュータ等による表現活動だけでは、基礎的な表現能力や創造性の育成を実現することは不可能であり、表現する対象をより深く観察し、自己の内面を見つめて、思いや考えをもとに主題を追求しながら描いたりつくったりする表現活動が、想像力や豊かな創造性を育成するためには欠かせないものであり、相互に関連しながら取り組むことが効果的であると考え。こうした表現活動の積み重ねは、研究主題の『美術・工芸の幅広い創造活動を通して、生活を心豊かに創造していくための生きて働く力となる資質や能力の育成を図るための学習指導と評価のあり方』に繋がっていくものと考え、「スプーンに映し出された自画像」を題材として設定し、実践した。

2 実践内容

(1) 題材の目標

ピカソの自画像の鑑賞を通して、作者の表現意図や心情を読み取り、自画像の制作に関心と意欲をもち、スプーンに映し出された自分の顔を深く観察し、造形的な形態のおもしろさを見つけるとともに、自己の内面を見つめ、自分の特徴や心情を創造的に表現する。また、作品鑑賞では自他の表現の違いを見つけ、よさを認め、自画像にこめられた思いを共有し合い、一人一人の個性についての考察を深める。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① ピカソの年代別「自画像」の鑑賞による導入

ピカソは生涯にわたり多くの「自画像」を描いてきた。これほど変化に富んだ自画像を描いている作家は他に類を見ず、ピカソの年代別の作品を鑑賞することにより多様な表現への理解を深めさせ、創造的な自画像の制作意欲を高めさせる。

② 視界の広い大きなスプーンの使用

通常のスプーンでは視界が狭く、自分の顔から離さないと全体が映りにくく、表情を観察しやすい大きなスプーンを使用する。また、スプーンの位置を移動することで映し出される顔の中心となる部分が変化することを体験させ、構図を工夫しながら構想を練らせる。（スプーンの凸面に顔を映し出す。凹面では逆さまに顔が映る。）

③ スケッチの陰影をもとにした彩色の区切り線

立体感のある彩色になるように、スケッチの陰影をもとに階調分割による彩色の区切り線を下絵に描かせる。

④ 作品合評会と発表会での制作意図や表現の工夫などについての意見交換

小グループによる作品合評会と代表作品による全体発表会で、自画像にこめられたそれぞれの思いを共有し合い、一人一人の個性についての考察を深めさせる。

B-1 題材の評価規準

3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
第1次 ピカソの「自画像」作品の鑑賞	・ピカソの「自画像」作品を鑑賞し、自画像の制作に関心を持ち、参考作品を鑑賞し、制作への意欲をもつ。	・多様な表現について理解できる作品を選択し、生徒の意欲付けとなるプレゼンテーションを行う。
第2次 スプーンに映し出された自分をスケッチ	・凹面や凸面に映し出された自分を観察し、構図を考えながら鉛筆でスケッチする。	・スプーンの位置を工夫させ、映し出される顔の表情のおもしろさなどを実感させ、構図を工夫させる。
第3次 スケッチをボードに転写	・スケッチからボードにトレーシングペーパーで転写する。	・スケッチを転写しながら構図を修正させ、より効果的な表現を試みさせる。
第4次 区切り線を下絵に描く デザインボードに着色	・スケッチの陰影をもとに階調分割し、彩色の区切り線を下絵に描く。 ・効果的な配色を考え、着色する。	・地図の等高線をイメージさせながら形を分割させる。 ・表情の特徴を効果的に表す配色を考えさせる。
第5次 小グループによる合評会と全体発表	・4～5人の小グループでワークシートをもとに合評する。 ・グループの代表作品で全体発表をする。	・表現意図や工夫した点などを造形的な要素を表す言葉で表現させる。 ・一人一人の個性について考えを深めさせる。

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

① 個性的で創造的な造形表現

スプーンに映し出された自分を観察して自画像を描くことは、普通の鏡を使って描く自画像よりも凹面や凸面の効果に強い関心をもち、視点を変えての造形表現のおもしろさを実感しながら制作を進めた。(ほとんどの生徒は、凸面に顔を映し出して描いた。)一人一人が個性的な作品を完成させ、創造的な造形表現としてねらいを達成することができた。

(2) 課題

① 個性的で創造的な造形表現

本題材の次に制作した「平面構成」の作品では、本題材で培った異なる視点でのものの見方やとらえ方、考え方が十分に生かされず、平凡な表現にとどまってしまった生徒が多く見られた。意識的に異なる視点による表現の効果を課題として設定し、繰り返し表現を試みさせることで、今まで気付かなかった見え方や考え方を発見させ、表現活動への意欲を喚起していかなければならない。

D-1 生徒作品